

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

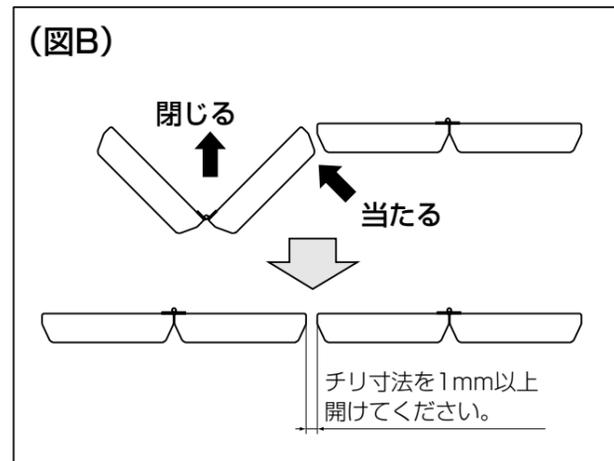
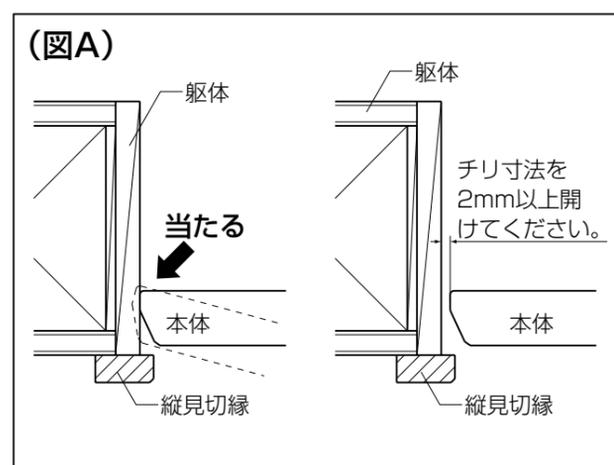
▲注意

●本体が枠から外れやすくなり、ケガの原因となりますので、下記事項をお守りください。

- ・本体上下軸ピボットの軸がピボット受けに納まっていることを確認してください。
- ・建付け調整後、上下のピボット受けの位置調整ボルトが締付けられていることを確認してください。
- ・本体が水平に取付いているか確認してください。
- ・本体の開閉がスムーズに行えて、開閉が重くないことを確認してください。

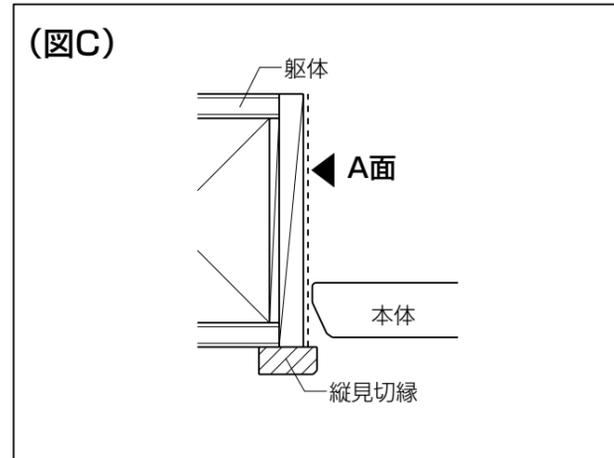
■取付け上のお願い

- 本体を閉める際は、本体の折曲がり部分に手を挟まないようにしてください。
- 故障の原因となりますので、下記事項をお守りください。
 - ・本体の吊元側は、躯体よりチリ寸法を2mm以上あけてください。(図A)
 - ・縦見切縁と本体は干渉しないようにしてください。
 - ・本体の戸先側同士は、チリ寸法を1mm以上あけてください。(図B)
 - ・枠と本体にねじれがないか確認してください。
 - ・本体の開閉時に異常な音が発生していないことを確認してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときには必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品は下荷重方式のため、床面で重量を受けますので、本体重量に耐える床面仕上げにしてください。(表1)
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズ付けないよう丁寧に取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- かい木には合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないください。やむをえず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 躯体(図C/A面)の仕上げは、現場で合板又はクロス張りにしてください。
- 建具養生などの際、粘着テープ(ガムテープ・養生テープなど)を直に張らないでください。建具表面が傷んだり、粘着剤がこびりついて取れなくなるおそれがあります。



(表1)

間口	本体重量
3尺間口	20kg
4.5尺間口	40kg
6尺間口	50kg



■部品・部材一覧表

■部材一覧表

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
		<p>又は</p>

■本体用部品セット一覧表

	把手セット (ねじ付)	軸ピボット (上)	軸ピボット (下)	ガイドピボット (上)・(下)	調整スパナ
全機種	1	1	1	2	1

■枠用部品セット一覧表

	皿タッピンねじφ4×50 (上枠躯体取付け用)	下部ピボット受け
0720・0723	2	1
1220・1223	4	2
1620・1623	5	2

■下枠用部品セット一覧表

	皿タッピンねじφ3.5×20 (枠取付け用)	下枠ピース
埋込下枠W07~W16	3	2
薄下枠W07	2	—
薄下枠W12~W16	3	—

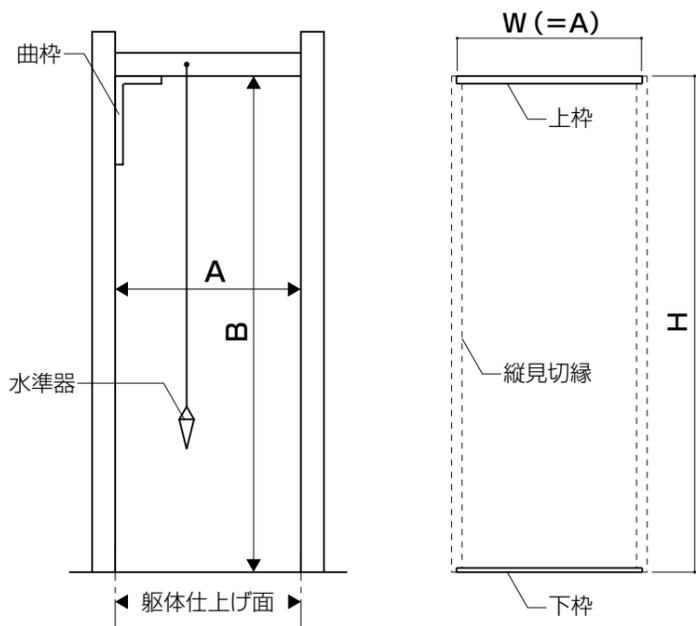
■開口部の作り方

- ※開口部の水平・垂直を確認してください。
- ※開口部寸法が下記寸法になっていることを確認してください。
- ※製品寸法W=上枠寸法
- ※開口寸法Aは躯体仕上げ面です。開口寸法Bはラフ開口です。

	開口寸法A (=製品寸法W)
W07	700
W12	1149
W16	1609

開口寸法A	製品寸法W
開口寸法B	製品寸法H+5mm

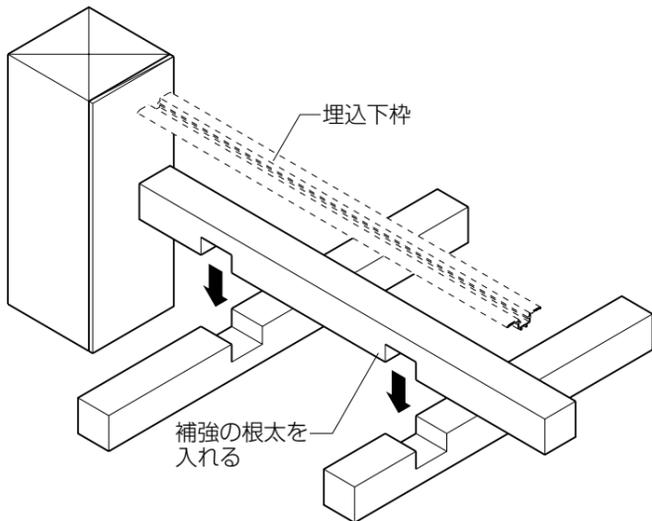
■開口寸法



■床の張り方

1 下枠下地の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。



2 床張り位置

【埋込下枠を使用する場合】

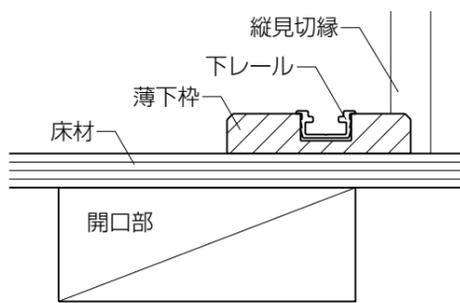
- 縦見切縁壁仕上げ面より13mm内側に入った位置に、20mmあけて張ってください。

お願い

- 床材は必ず右図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

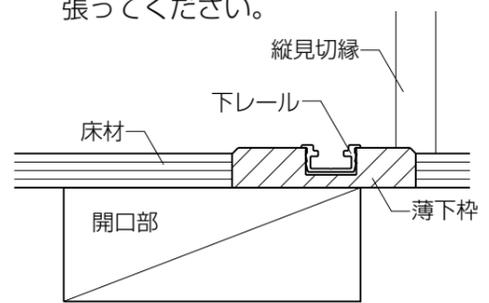
【薄下枠を使用する場合(床のせ納まり)】

- 床材を張ってから枠を取付けてください。



【床後張りの場合(枠先付け)】

- 上枠取付け後、薄下枠にそって床材を張ってください。



収納内部側

室内側

■枠の取付け順序

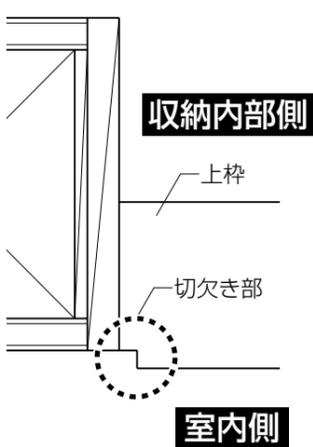
【埋込下枠使用の場合】 上枠→縦見切縁→埋込下枠

【薄下枠使用の場合】 上枠→薄下枠→縦見切縁

1 上枠の取付け

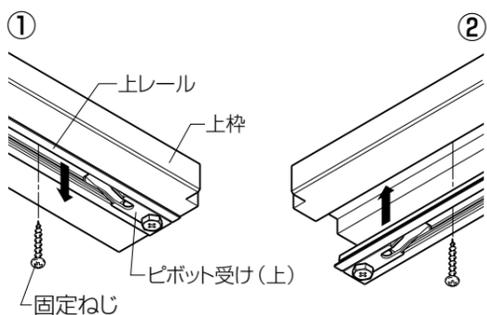
- ① 上枠切欠き部を仕上げ面に合わせてください。

(図1)



お願い

- W07サイズの上枠は、右吊元仕様でピボット受け(上)が上レール右側に付いています。左吊元にする場合は、①上レール両端の固定ねじを外して上レールを外し、②上レールを左右逆にして付け直してください。



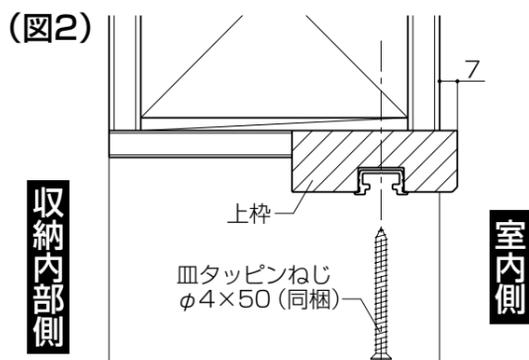
右吊元

左吊元

- 上枠を取付ける際、水平・垂直を必ず確認してください。本体開閉不具合の原因となります。

- ② 上枠を同梱の皿タッピンねじで躯体に固定します。

(図2)



2 縦見切縁の取付け

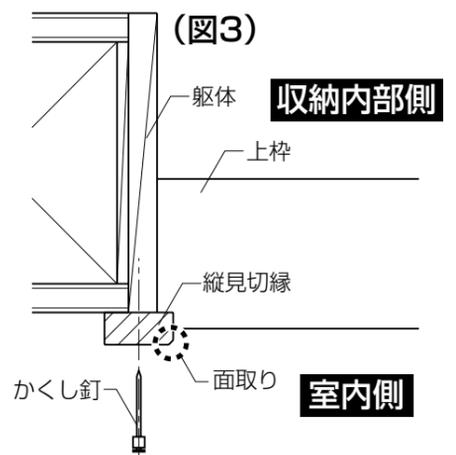
※ 壁材・床材・躯体を仕上げしてから、縦見切縁を取付けてください。

- ① 縦見切縁を現場寸法に合わせて切断します。

- ② 縦見切縁を上枠の切欠き部に合わせて、接着剤とかくし釘(現場手配)で固定します。(図3)

※ 接着剤は点付けでなく、接着部にまんべんなく塗布してください。かくし釘は、300mmピッチを目安に打込んでください。

※ 面取りされている部分が図の位置にくるように縦見切縁を取付けてください。



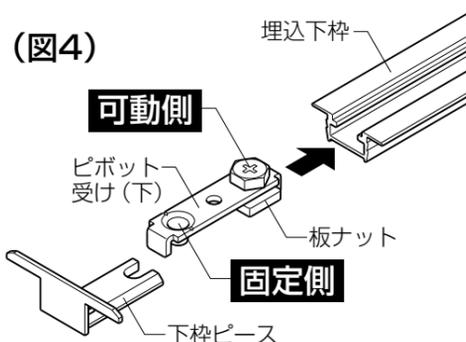
3 埋込下枠の取付け

- ① 下枠にピボット受けを差込み、下枠ピースを差入れます。

※ ピボット受けのナットが可動側へ向くようにしてください。(図4)

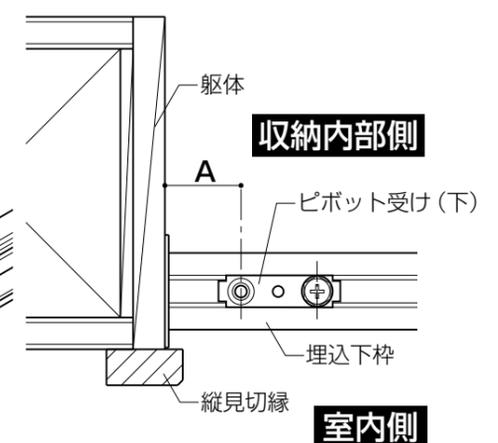
ピボット受け(下)を右下図の位置に合わせ、ボルトをプラスドライバーで締め、固定してください。(本体の吊込み後、ボルトは再度ゆるめ、建付け調整を行います。)

(図4)



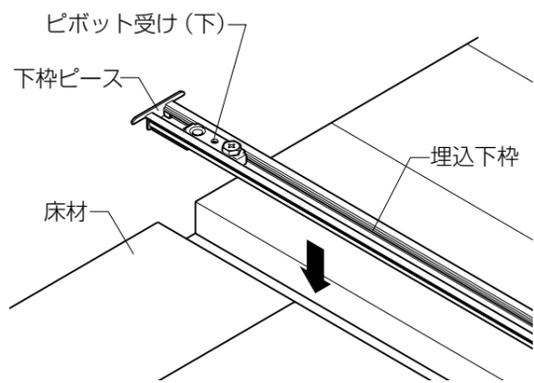
■ピボット固定位置

	A寸法
W12・16	32
W07	31.5

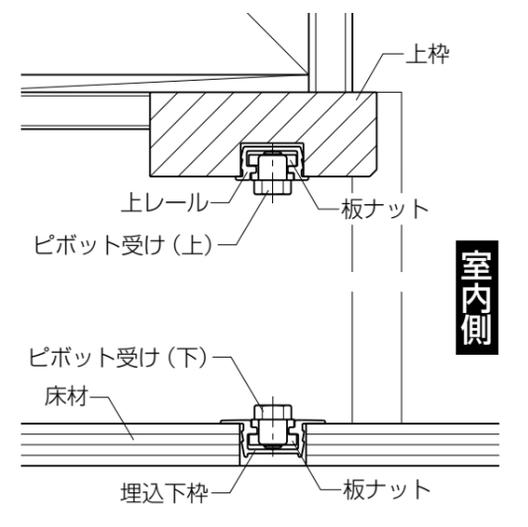


②下枠ピースとピボット受け(下)が取付いた状態で床に埋込みます。

(図5)

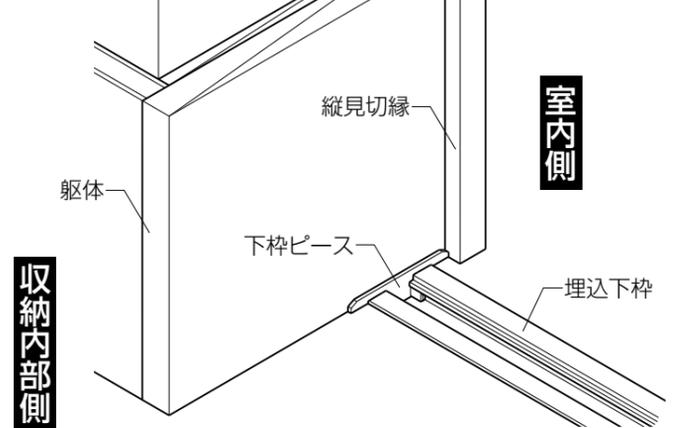


■ピボット受け納まり



③(図6)のように下枠ピースを、縦見切縁に当て、位置決めをします。

(図6)

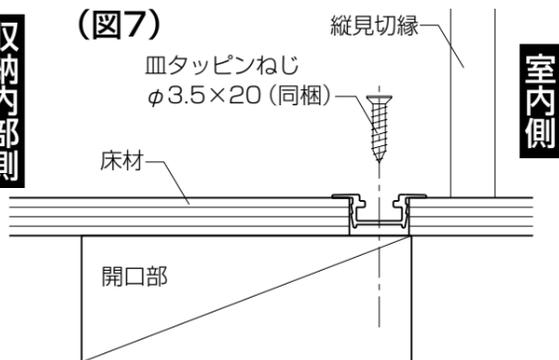


④埋込下枠を皿タッピンねじφ3.5×20で固定します。

収納内部側

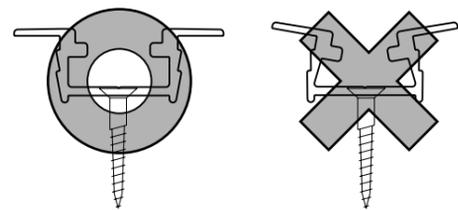
(図7)

皿タッピンねじ
φ3.5×20 (同梱)



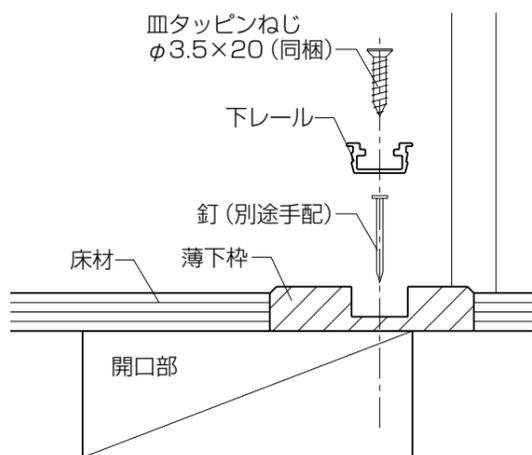
お願い

●下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。



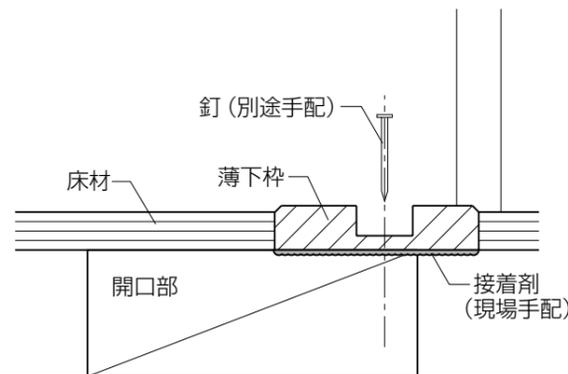
4 薄下枠の取付け

- ①薄下枠切欠き部を、壁仕上げ面に合わせてください。
- ②薄下枠を同梱のねじで固定してください。
- ※横穴加工は、賃貸住宅向けでは使用しません。



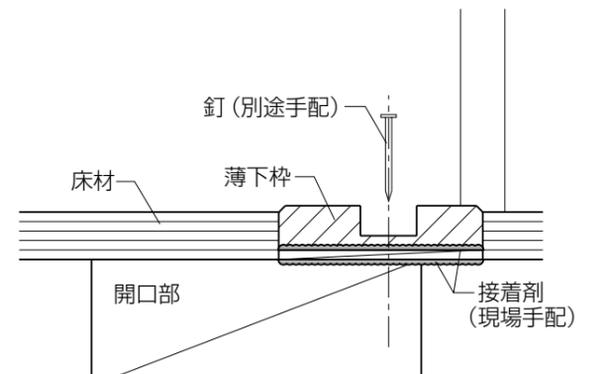
【床材厚さ12mm】

※必ず薄下枠に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



【床材厚さ15mm】

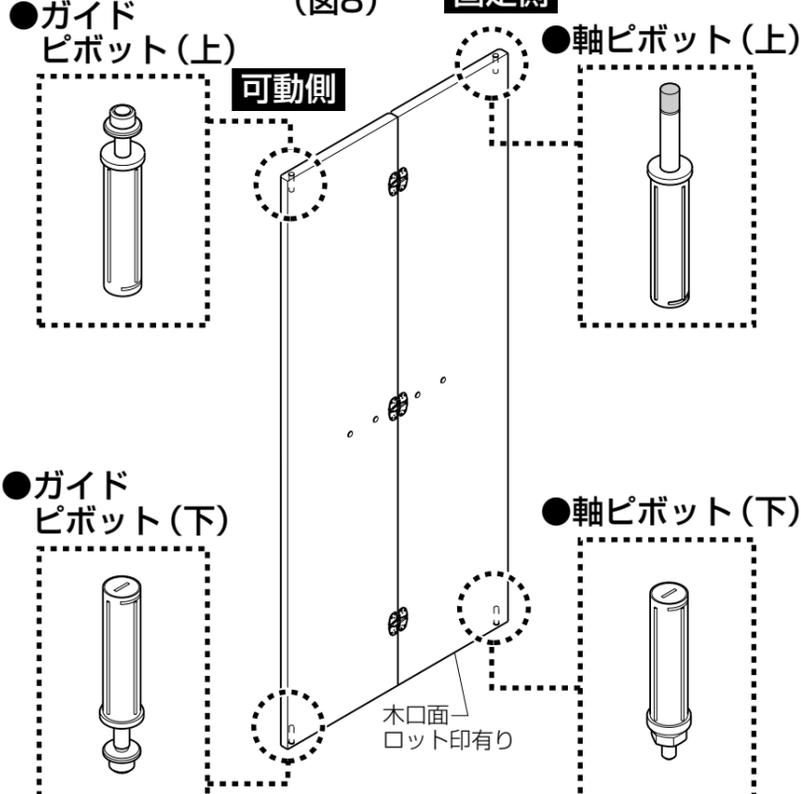
※必ず薄下枠と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



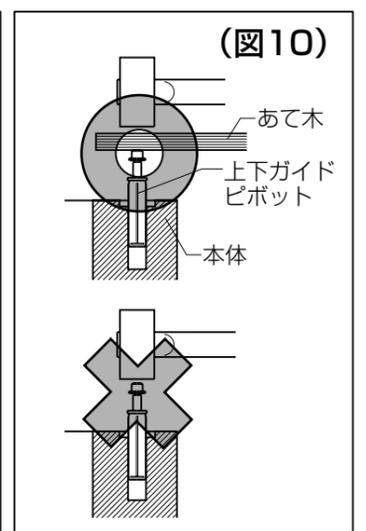
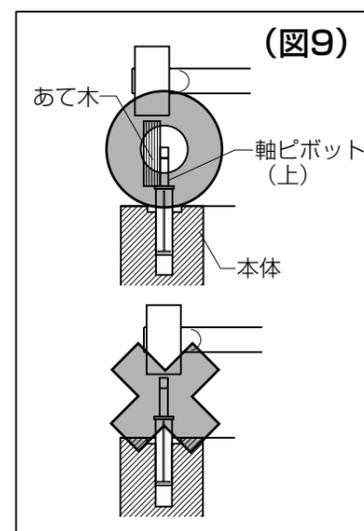
■本体の吊込み

1 ピボットの取付け

※ピボットは、必ず右図のような組合せになるように取付けてください。(図8)
※必ず本体の上下を確認してください。木口にロット印がある方が下になります。

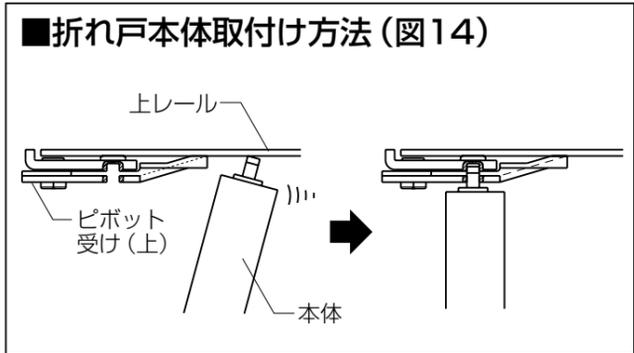
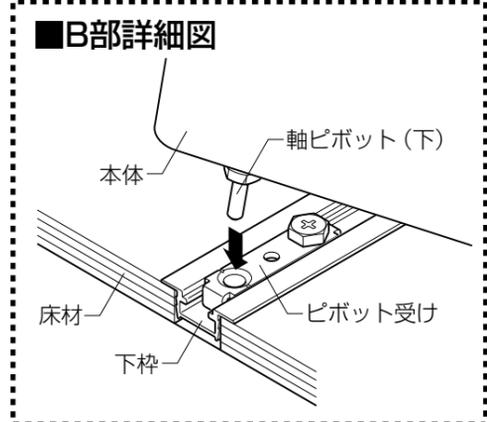
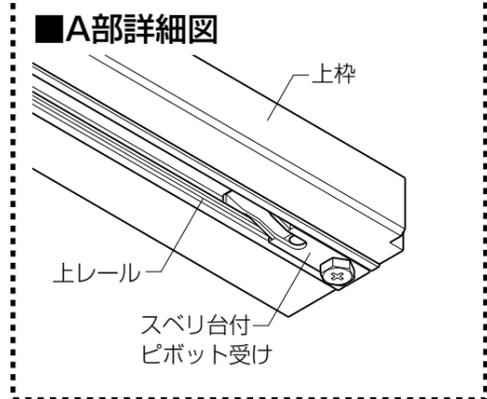
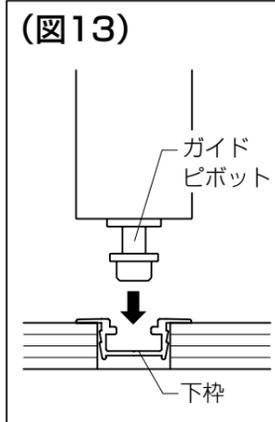
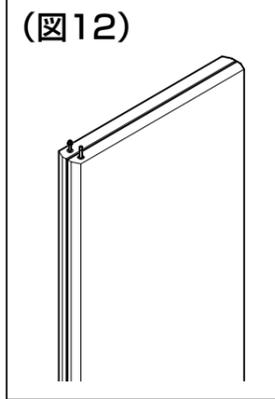
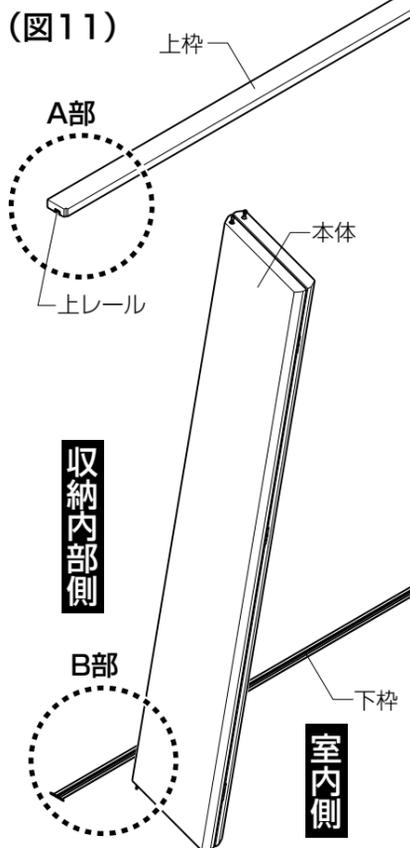


- ①軸ピボット(上)を本体の取付け穴に差込みます。※取付ける際は、図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。軸をたたくとつぶれてしまいますので軸はたたかないでください。(図9)
- ②ガイドピボット(上・下)および軸ピボット(下)を本体の取付け穴に差込みます。※取付ける際は、図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。(図10)



2 本体の吊込み (図11)

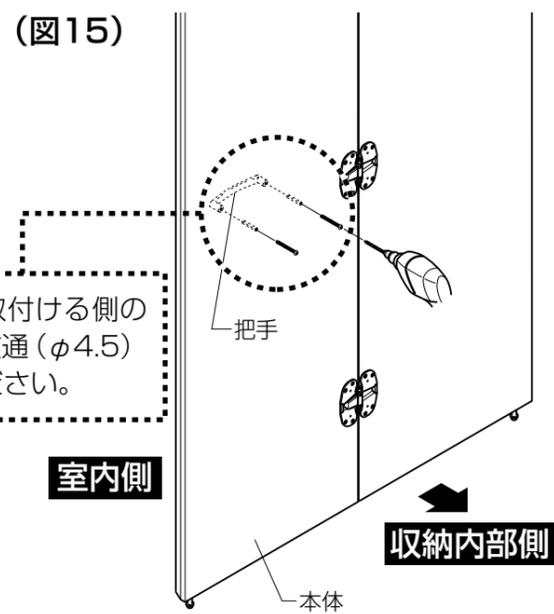
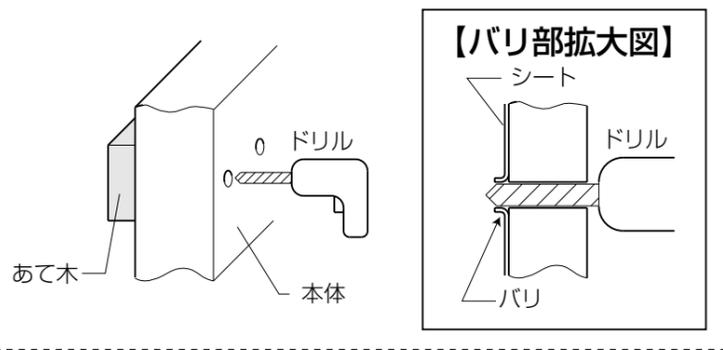
- ① (図12) のように本体をたたんだ状態でガイドピボット(下)を下枠の溝に差込みます。(図13)
- ② 下枠のピボット受けに軸ピボット(下)を差込みます。(B部詳細図)
- ③ 軸ピボット(上)とガイドピボット(上)が、上レールの溝に入るように本体を立てます。
- ④ 軸ピボット(上)が、スベリ台付ピボット受けにはまる(『カチッ』と音がする)まで本体を立てます。(図14)
- ⑤ もう片方の本体も同じ手順で吊込んでください。



3 把手の取付け

- 把手を取付けます。
- ※ 2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。(図15)

● 把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ずあて木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



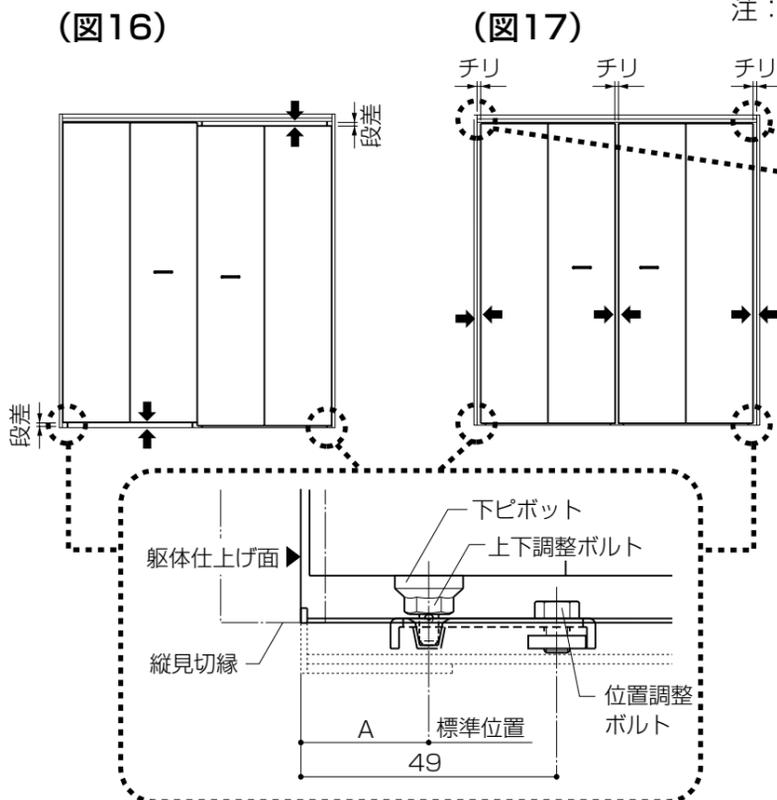
■ 建付け調整

※ 本体の段違いおよび左右のチリを調整します。

1 段違い(上・下)の調整

(本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合)

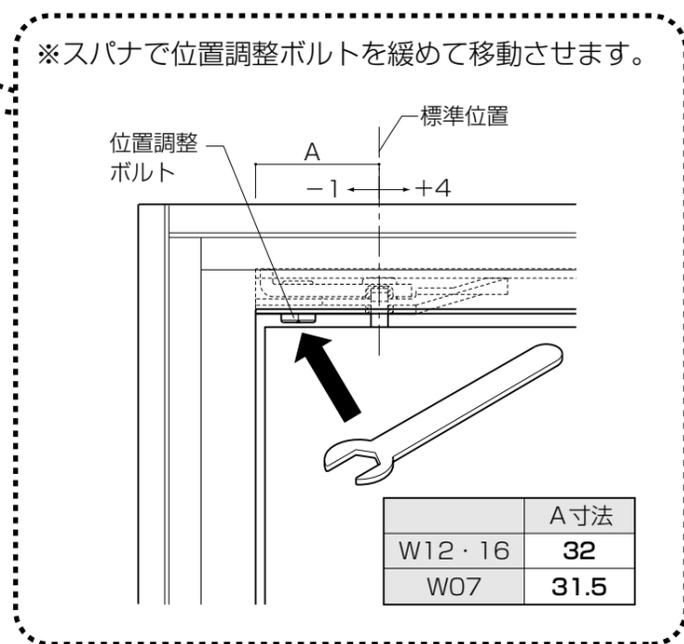
- ※ 下部ピボットの上・下調整ボルトを回して調整します。
- ※ 上下調整量/埋込下枠: ±3mm、薄下枠: ±2mm (図16)



2 チリ(左・右)の調整

(図17のように左右のチリが大きい場合)

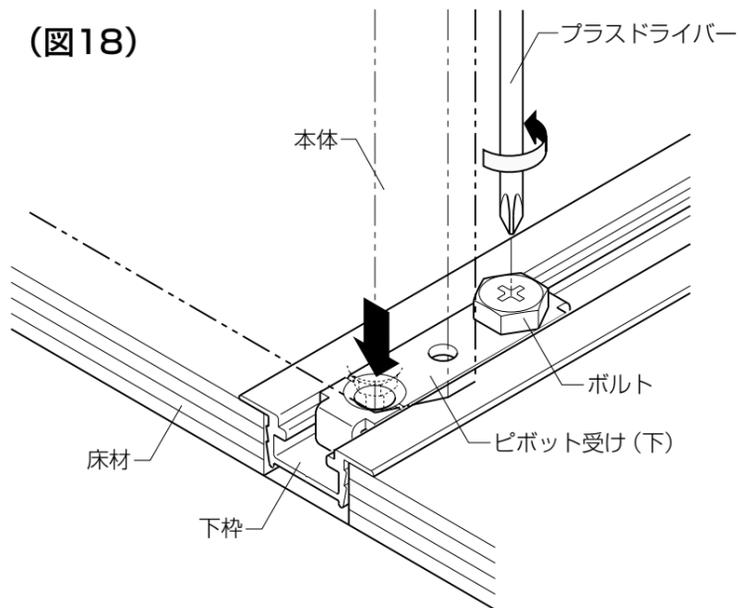
- ※ 上・下のピボット受けの位置調整ボルトを緩め、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。(上ピボット受の左右調整量/ +4, -1mm)
- 注: 調整完了後、ピボット受けを同梱のスパナで本固定してください。(図17)



	A寸法
W12・16	32
W07	31.5

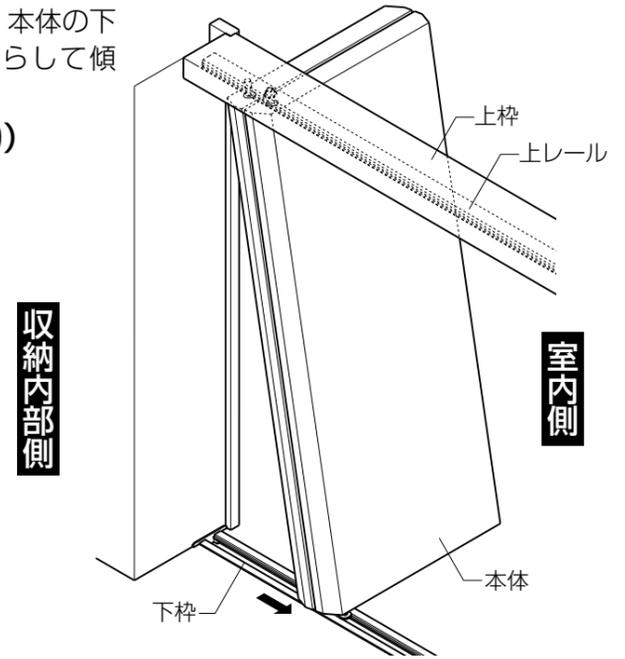
■本体の外し方

①ピボット受け(下)のボルトを緩めます。

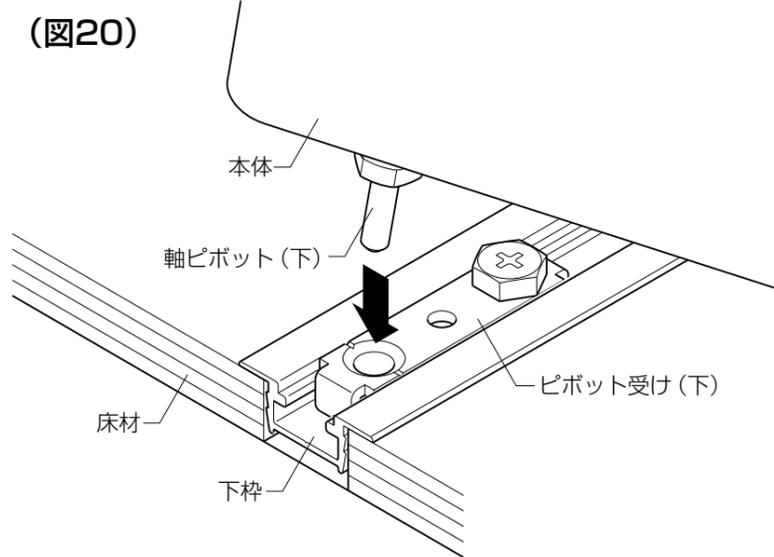


②本体を2枚揃えて、本体の下方をゆっくりとずらして傾けます。

(図19)

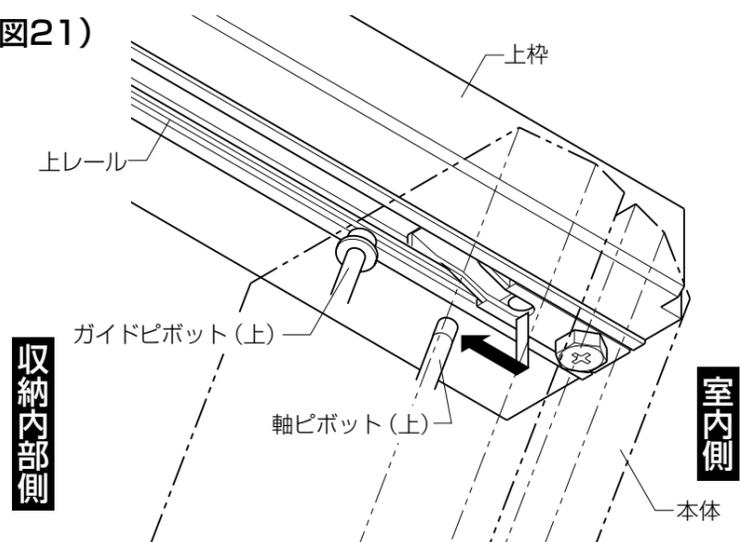


③本体を持ち上げ、軸ピボット(下)をピボット受け(下)から外します。



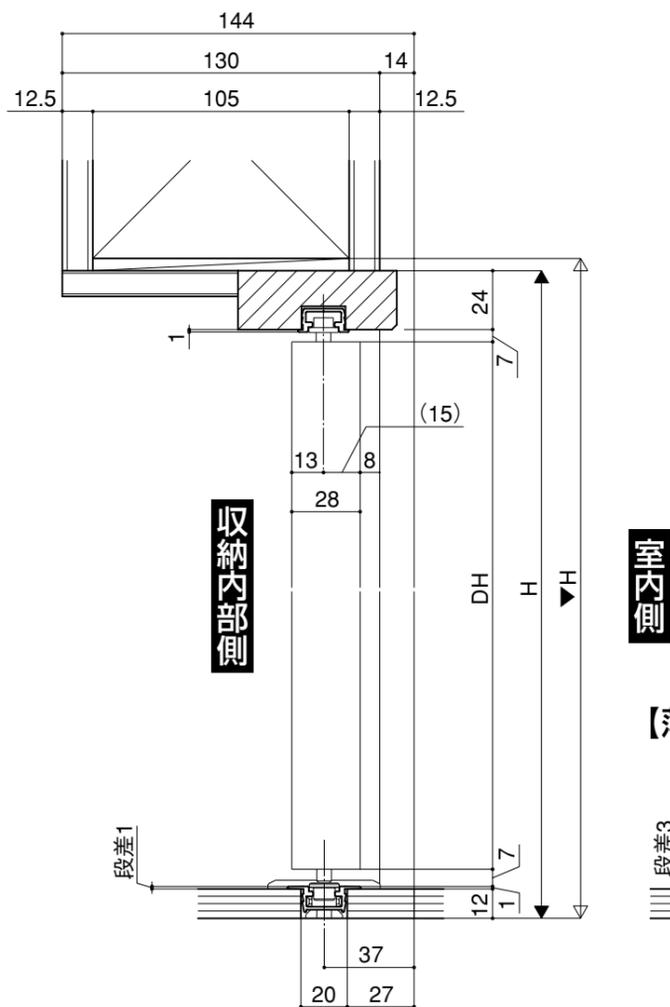
④さらに本体を傾け、上側のピボットを上レール溝から外します。

(図21)

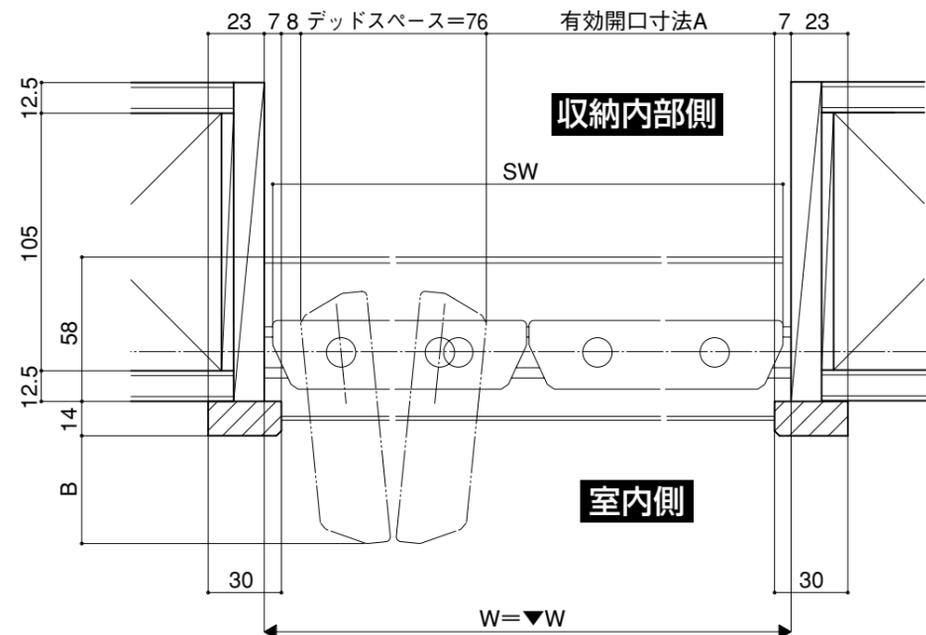


■納まり図

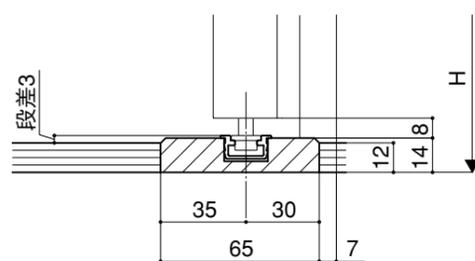
■縦断面図



■横断面図



【薄下枠使用の場合】



W呼称	A寸法	B寸法
W07	602	281
W12	967	219.5
W16	1427	334.5

基本寸法 (mm)	W呼称	07	12	16
	W (SW)	700(693)	1149(570)	1609(800)
	H呼称	20	23	—
H (DH)	2035(1984)	2318(2267)	—	